



DBT トレーナーのためのガイドライン

2023年2月15日発行

この文書の目的

WDBTA は、DBT の国際組織として DBT を提供している実践者や施設への、そしてこの治療を伝えるためにメンタルヘルスの専門家をトレーニングしている人達へのガイダンスと支援を提供しようとしている。

この治療の専門家集団として、私たちはしばしば、治療のトレーニングを提供する資格を認められているのは誰かと尋ねられてきた。私たちは、またトレーニングに投資する実践者達が、治療について正確に教える質の高いトレーニングを受けられるようにすることにも関心がある。最終的に私たちの目標は、DBT を受ける人々が質の高い治療を受けられるようにすることである。これらの目的を念頭に置き、WDBTA の理事会は、DBT のトレーニングを提供する国際的な専門家集団（委員会のメンバーのリストはこの文書の最後に記載されている）に、DBT のトレーニングを受ける人がどのような資質や知識、スキルを持つべきかを検討するよう依頼した。

その目的は、世界の多くの地域ではトレーニングへのアクセスが限られているという現実と、質の高さのバランスをとることである。WDBTA は、トレーニングを提供しているあらゆる個人や組織が、概説された基準を目指すことを奨励するためにこのガイダンスを作成した。私たちは、トレーニングを提供している誰もがこれらの基準に関連する自分の専門知識を明確にし、トレーニングを求める実践者が、トレーニングを提供している個人や組織について質問して透明性を確保することを奨励している。

この文書はどのように作られたか

委員会の目的は、DBT トレーニングへのアプローチを慎重に調査、検討し、DBT に忠実なプログラムと提供者を効果的かつ効率的に生み出すことであった。調査の過程で、私たちは米国とヨーロッパで使用されているトレーニングモデルやガイドライン、基準を調査した。まず Behavioral Tech (米国) とその関連団体、British Isles DBT、the German Association for DBT (ドイツ DBT 協会) (DDBT)、Dialectics (オランダ)、DGT Valaanderen (ベルギー) から提出された DBT トレーニングのモデルの再検討から始めた。委員会のメンバーによって使用されたこれらおよび、他のトレーニングアプローチが、過去 18 カ月間にわたって調査された。DBT トレーニングが行われる環境の多様性と、DBT が使用される経済的、文化的、国家的な状況の範囲を考慮して、最終的には、規範的な方針ではなく、示唆的な枠組みを決定した。

再検討されたモデルは、一般的に、時間枠内にカリキュラムを完了することに基づくモデルではなく、個人がトレーナーとして遂行するレベルを決定するために、コンピテンシーに基づくアプローチを適用している。

DBT トレーナーと DBT コンサルタントの役割には、共通の実質的な知識と実践の土台が必要とされるのと同時に、異なる種類のコンピテンシーも必要であるという点でも一般的な合意がある。

私たちが再検討した様々なトレーニングモデル全体を通して、トレーナーになることを志願する人の**必要条件**；トレーナーになる人に期待されるコンピテンシー；トレーナーの**指定されたレベル**（志願者、トレーニング中のトレーナー、トレーナー、場面によっては上級トレーナーやコンサルタント）；トレーナーをあるレベルから次のレベルへ移動させるためのトレーナーを評価するプロセス、そして長期にわたる**継続的なコンピテンスを保証する手段**については、かなりの重複と暗黙の合意がある。

地域や地方、国家の規制と、内部の「政治的」配慮への適応に代表される、様々なトレーニング組織によって異なる細目がある。このガイドラインは、特定の組織特有の適応についての言及とともに、さまざまなモデル間でかなりのコンセンサスが得られていることを示している。

DBT トレーナーになることを志願する人達の必要条件

1. 経験と資格を持つセラピストまたはメンタルヘルスの実践者
 - a. 必須の登録、認定、ライセンス、など
2. 治療への忠実性
 - a. DBT-LBC、英国およびアイルランドの DBT 協会、DDBT（ドイツ）、または同等の認定を受けている。その地域に存在する選択肢にもよる。
3. DBT の内容についての習熟（下記のコンピテンシーを参照）
4. DBT プログラム/コンサルテーションチームに参加し、毎週包括的 DBT 指導チームを実施していること
5. 最低でも週 1.5 日 DBT に関連する仕事を実施している（セラピスト、スキルトレーナー、チームリーダー、指導者、研究者として）
6. 個人セラピー：最低 2 年間の実践経験があり、電話によるコーチングを含め、少なくとも 2 つの事例を最後まで治療している
7. スキルトレーナー：1 年以上のスキルトレーニングの指導経験がある；少なくとも 2 回全てのカリキュラムの指導経験がある
8. DBT 指導者：地域（コンサルテーションチーム、セミナー、地元地域）での DBT の指導経験がある
9. 行動療法のトレーニングを受けている
10. 定期的なマインドフルネスの実践をしている
11. DBT に関連する研究の知見、DBT が推奨される治療法の対象者、自殺、自殺予防と治療について最新の知識を把握している
12. DBT および関連トピックに関する国内または国際会議に出席し、研究と臨床の最新情報を把握している

DBT トレーナーとして期待されているコンピテンシー

1. 関与（エンゲージメント）：聴衆の注意を引きつけ、注意を維持する
2. 伝達：聴衆のレベルに合わせて、必要に応じて臨床例を用いながら、カリキュラムを明確に伝える
3. 正確性：ロールプレイの有無にかかわらず、聴衆の質問に正確に答える
4. 弁証法的思考：弁証法的に概念化し、質問や相違点を弁証法的に扱う

5. 治療の実演：ロールプレイを通して全ての治療の戦略とプロトコルを実演する
6. コンサルテーション：個人やチームによって提示されるプログラムや事例についての的確で効果的なコンサルテーションを行う

トレーナーのレベル、およびレベル間の動き

1. 志願者
2. トレーニング中のトレーナー
 - a. エキスパートのDBTトレーナーを観察する
 - b. 上級トレーナーが実施するトレーニングで複数のコンテンツ領域をプレゼンテーションする
 - c. 上級トレーナーからのフィードバック、聴衆からの評価を受ける
 - d. 可能であればさまざまなトレーナーと一緒にプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける
 - e. トレーナーになるためのトレーニング期間中に、コンピテンシーの達成状況の記録を保持する
3. トレーナー
 - ・他のトレーナーと一緒にワークショップを実施する
 - ・可能であればさまざまなトレーナーと一緒にプレゼンテーションを行い、聴衆だけでなく同僚からのフィードバックも受ける
 - ・以下のいずれかの方法を通じて上級（シニア）トレーナーと一緒にトレーニングをすることで、経験を獲得し続ける
 - ・包括的なDBT（全ての機能とモード）を指導するトレーニングで共同トレーナーの役割を務める
 - ・専門的なワークショップで共同トレーナーの役割を務める
4. チームに基づく包括的なトレーニングを指導するための必要条件。トレーニング組織は、以下の領域を含むチームに基づく包括的なトレーニングを実施しているトレーナーに固有の基準を設定することが期待されている：
 - a. 経験に基づくコンピテンシー
 - i. 指定された回数のワークショップでトレーナーを務めた
 - ii. 複数の包括的トレーニングの共同トレーナーを務め、定評のある上級トレーナーの指導のもとで、2回の包括的トレーニングを成功させている
 - b. 知識に基づくコンピテンシー
 - i. 普及と実装科学および効果的なトレーニング方法に関する一般知識を持っている
 - ii. 上記の複数のコンテンツ領域とコンピテンシーを習得している
 - c. スキルに基づくコンピテンシー
 - i. 方針を策定する相談スキル（エグゼクティブコンサルティングスキル）を持つ
 - ii. 準備なしで治療のあらゆる側面をロールプレイすることができる
 - iii. 適応化されたDBTのほとんどについて相談できる
 - iv. 高度なワークショップを指導できる
 - v. プログラムの実施と開発に関するコンサルテーションを提供することができる
 - vi. DBTの原則をシステムやトレーニング全体に効果的に適用できる
 - vii. システムやチームで生じる弁証法的緊張を効果的に管理できる
 - viii. 組織やチームで生じる個人的な緊張を効果的に緩和することができる
 - ix. 個人セラピーやスキルグループの指導者、チームの指導者をスーパーバイズできる

5. 上級トレーナーの資質。組織はトレーニング中のトレーナーの観察、トレーニング、フィードバックの提供を任せているトレーナーに対する基準を設定している。
- 上記全ての能力を備えている
 - 潜在的なトレーナーの実績を評価できる
 - わかりやすい方法でフィードバックを提供できる
 - トレーニング組織は、そのトレーナーが DBT の専門家であると他のトレーナーから認められていることを決定するための基準を設定している。

トレーニング中のトレーナーのコンピテンシーを評価する方法

- 対面での観察、振り返り、フィードバック
- ビデオ録画されたトレーニングの一部分の、フィードバックを伴う振り返り
- 実績についての聴衆の評価

指定された「メンター」が、トレーナーのコンピテンシー向上を支援するために割り当てられる場合がある。

委員会のメンバー

Ann Berens, M.D., Clinical Director University Psychiatric Hospital Duffel; Head of department DBT Treatment Unit Spinnaker 2; President Flemish DBT association

Linda Dimeff, PhD, Institute Director, DBT-Linehan Board of Certification, Certified Clinician™

Anthony P. DuBose, PsyD, DBT-Linehan Board of Certification - Board Certified Clinician, Chief Training Executive & Director of CE/CME, Behavioral Tech, LLC

Azucena Garcia-Palacios, PhD, Abnormal Psychology Full Professor, Universitat Jaume I. Spain. President of the Spanish DBT Association

Pablo H Gagliesi, MD, Director: DBT Iberoamerica. Director: DBT program at Fundacion Foro. Honorary President: SI DBT

Cesare Maffei M.D. Professor Emeritus of Clinical Psychology, Vita-Salute San Raffaele University, Milan, Italy. Past-President of the Italian DBT Society (SIDBT).

Shari Manning PhD (Co-Chair). Treatment Implementation Collaborative

Alec L Miller, PsyD. Co-Founder, Cognitive and Behavioral Consultants, New York, USA

Francheska Perepletchikova PhD. Associate Professor in Psychiatry, University of Massachusetts Chan Medical School

Michaela A Swales PhD (Co-Chair) Director of Training, British Isles DBT Training

Charles Swenson M.D. Associate Professor of Psychiatry, University of Massachusetts School of Medicine.

Louisa (Wies) van den Bosch, PhD, initiator and former director of the Dutch and Belgium training institute 'Dialexis', Clinical Director Dutch DBT treatment Centre.

Translators: Tomoko Ishii, Ph.D., Akira Tachibana, M.D., Ph.D., DBT team in Keiaikai Medical Corporation Suehirohashi Hospital, Japan